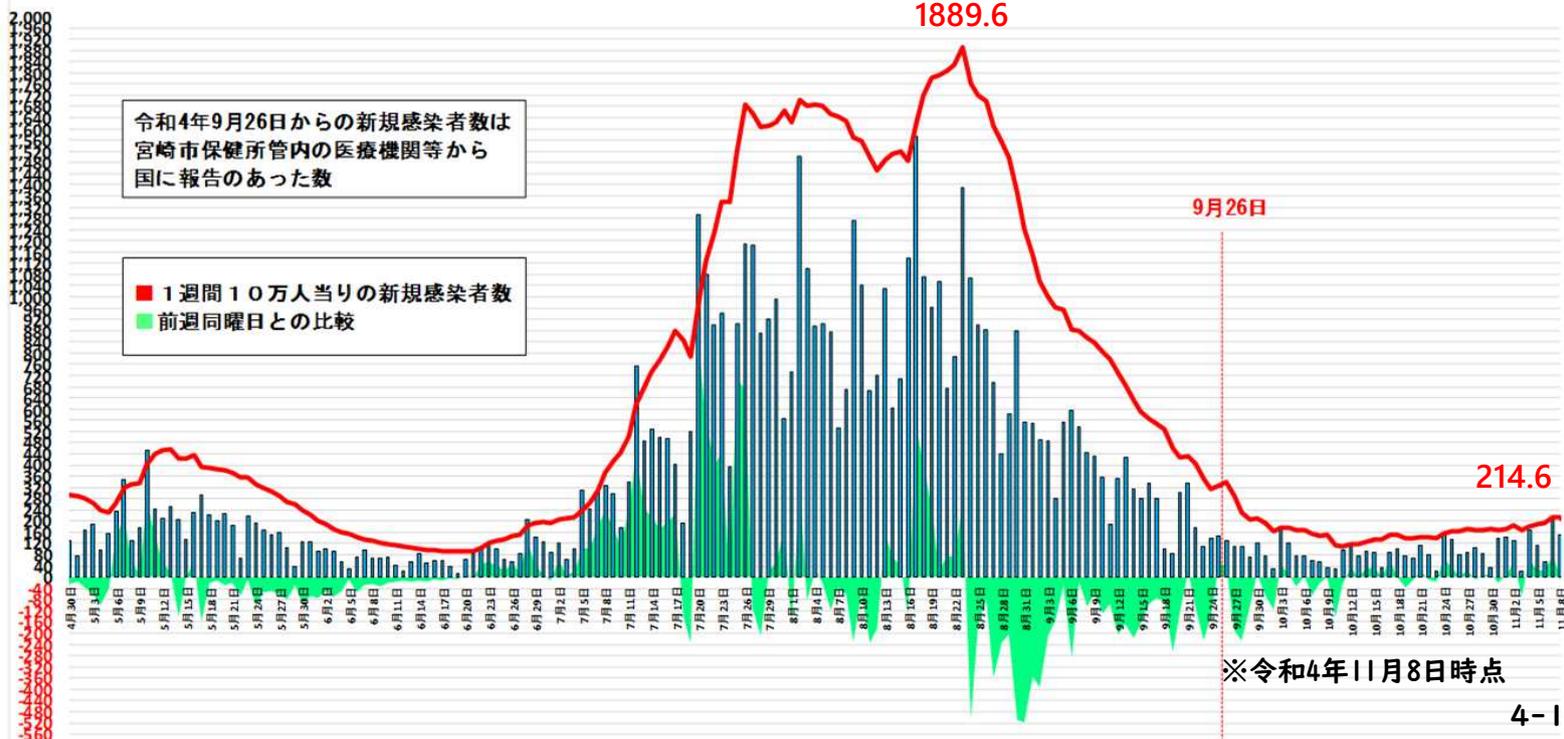


- 直近1週間の10万人当たりの新規感染者数は、**214.6人**（11月8日時点）
- 10月中旬まで減少傾向であったが、10月下旬から増加傾向。
- 11月8日に、宮崎市を含む宮崎・東諸県圏域が「**感染警戒圏域（オレンジ圏域）**」から「**感染急増圏域（赤圏域）**」に変更



- 直近の10月30日～11月5日の週の新規感染者数は**749人**
- 1週間の新規感染者数は、10月下旬から3週連続で前週を上回っている。

日 SUN	月 MON	火 TUE	水 WED	木 THU	金 FRI	土 SAT	週計
10/9	10	11	12	13	14	15	
33	30	98	114	77	91	90	533
+2	▲141	▲23	+36	+1	+32	+34	▲59
16	17	18	19	20	21	22	
34	90	100	77	66	114	82	563
+1	+60	+2	▲37	▲11	+23	▲8	30
23	24	25	26	27	28	29	
20	158	134	81	89	106	86	674
▲14	+68	+34	+4	+23	▲8	+4	111
30	31	11/1	2	3	4	5	
35	137	145	131	23	166	112	749
+15	▲21	+11	+50	▲66	+60	+26	75
6	7	8	9	10	11	12	
56	213	152	◀ 新規感染者数				421
+21	+76	+7	◀ 前週との差				104

ポイント

- 今冬は新型コロナウイルス感染症と季節性インフルエンザの同時流行が想定され、発熱外来がひっ迫する可能性があります。
- 感染拡大前に新型コロナウイルスとインフルエンザのワクチン接種をご検討ください。
- 発熱などの体調不良時にそなえ、新型コロナウイルスの抗原定性検査キットや解熱鎮痛薬を準備しておきましょう。
- 抗原定性検査キットを購入する際には、国が承認した体外診断用医薬品や第一類医薬品と記載されたものを選びましょう。

この冬は、ワクチン接種・新型コロナ抗原定性検査キット・解熱鎮痛薬の準備を

！ 新型コロナウイルス感染症と季節性インフルエンザが同時に流行すると、発熱外来がひっ迫する可能性があります。

感染が拡大する前の接種をご確認ください



- ・ 新型コロナワクチンの接種
新型コロナワクチンの早期の接種をお願いします。
- ・ インフルエンザワクチンの接種
65歳以上の方などの定期接種対象者で、接種を希望される方は早めの接種をお願いします。



発熱などの体調不良時にそなえて、早めに購入しておきましょう

- ・ 新型コロナ抗原定性検査キット
（市販の抗原定性検査キットについて）
- ・ 解熱鎮痛薬
かかりつけ薬剤師・薬局にお気軽にご相談ください。



あわせて確認しておきましょう

- ・ 電話相談窓口などの連絡先
受診・相談センターなどお住まいの地域の相談窓口、「救急車利用マニュアル」の参照や#7119（救急要請相談）、#8000（こども医療相談）など
- その他、生活必需品なども用意しておきましょう。
（体温計・日持ちする食料（5～7日分）など）

チェック！

（※8・9歳は接種できません）

（※急病利用マニュアルについて）

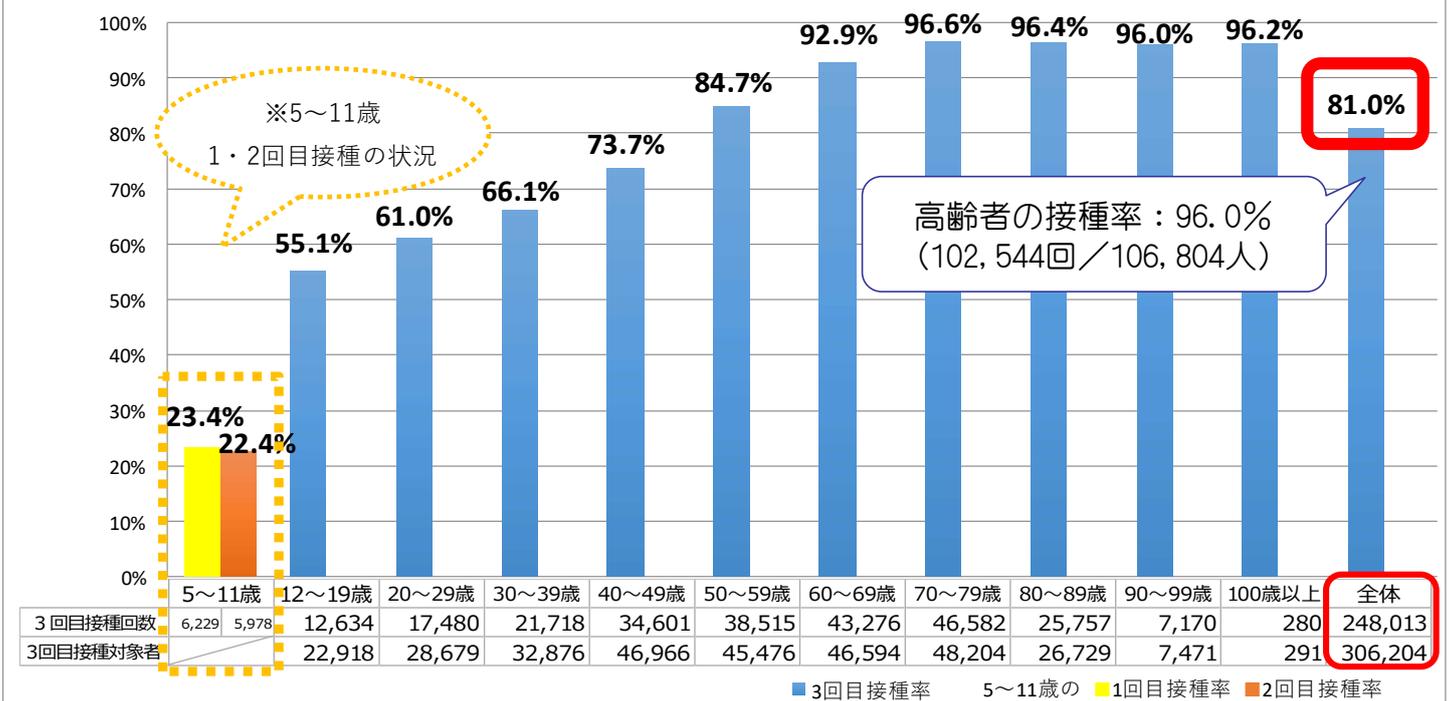
国が承認した新型コロナ抗原定性検査キットを選びましょう

「研究用」ではなく国が承認した「医療用」もしくは「一般用」のキットを使用してください。



3回目接種における年齢区分別の接種状況（3回目接種対象者ベース）

年代別の3回目接種率・接種回数（11月9日時点）
（3回目接種対象者（2回目接種から3か月経過した方）に対する割合）



※5～11歳の接種回数について、令和4年8月22日から、使用ワクチンが「ファイザー（5～11歳用）」の接種回数を計上

※5～11歳は、R4.1.1時点の住民基本台帳人口（26,652人）に対する1・2回目接種の割合を表示

※12歳以上は、2回目接種から3か月経過した方の接種率を表示

4回目接種回数・接種率（令和4年11月9日時点）

	高齢者（65歳以上）		12～64歳	
	住基人口ベース （R4.1.1時点）	接種対象者 （3回目接種から 3か月経過） ベース	住基人口ベース （R4.1.1時点）	接種対象者 （3回目接種から 3か月経過） ベース
接種回数	86,377回 （うちオミクロン株対応ワクチン：4,515回）		44,987回 （うちオミクロン株対応ワクチン：19,875回）	
接種率	75.4%	84.9%	18.5%	32.6%
対象者数	114,573人	101,737人	243,356人	137,910人

※接種対象者ベースは、3回目接種から3か月経過した方に対する接種率

1・2回目接種について

- ・今後、1・2回目接種の機会が減っていきます！
- ・1・2回目接種を受けていない方はオミクロン株対応ワクチンの接種を受けることができません！



年内に1・2回目接種を完了することを検討ください！

集団接種での1・2回目接種（11月の実施日程）

- 小児（5～11歳）＜小児用ワクチン（ファイザー）を使用＞
- 12歳以上 ＜従来ワクチン（ファイザー）を使用＞

⇒ **11月26日（土）** ※以降も3週間に1回のペースで実施

12歳以上の方は、10月21日から接種間隔が「5か月」⇒「3か月」に短縮されました！



- 直近の接種（2～4回目）から「3か月」を経過する前に接種券が届くように、10月31日発送分以降、当初のスケジュールを前倒しして接種券を発送しています
- 接種可能日に直近の接種から「5か月」後の日付が記載された接種券をお持ちの方でも、「3か月」後には接種が可能です

4-7

【個別接種】

- ・約230の医療機関で実施
- ・予約は実施医療機関に直接行ってください
- ・実施医療機関の情報等の詳細は 市ワクチン特設サイトで確認又は市ワクチンコールセンターにお問い合わせください

【集団接種】

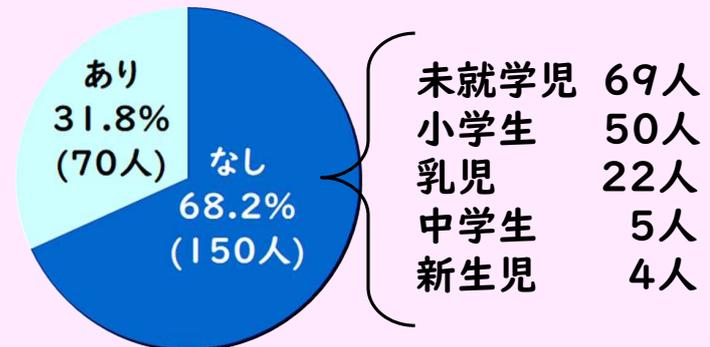
実施日程	受入定員(人)	夜間帯の実施
11月10日(木)	900	
11日(金)	1,230	○
12日(土)	1,230	○
17日(木)	900	
18日(金)	780	○
19日(土)	1,230	○
20日(日)	900	
24日(木)	900	
25日(金)	1,230	○
26日(土)	780	○

※12月以降も継続して実施します

4-8

①酸素投与が必要な中等症以上で入院した20歳未満の220人を分析(日本集中治療医学会)

新型コロナで入院した子どもの基礎疾患の有無



- 未就学児 69人
- 小学生 50人
- 乳児 22人
- 中学生 5人
- 新生児 4人

- ・未就学児(1歳以上)が69人と最も多く、乳児(生後28日以上)の0歳児も22人
- ・症状としては、グループ症候群、熱性けいれん、急性脳症など

(3月10日~8月15日に入院した20歳未満の220人。日本集中治療医学会の調査結果より作成) (出典)時事通信社配信記事

②18歳未満の小児新型コロナウイルス感染症入院例847人を分析(国立成育医療研究センター、国立国際医療研究センター)

⇒酸素投与、集中治療室入院、人工呼吸管理などのいずれか要した”より重症と考えられる患者”43名のうち、2回接種を受けていた者は0人

乳幼児用ワクチン(ファイザー)の有効性・安全性

○オミクロン株流行下での3回目接種後7日以降の 発症予防効果は73.2%

○安全性に 重大な懸念は認められない

38度以上の発熱	6か月~1歳:6.8%(5.9%) 2~4歳:5.1%(4.2%)
接種部位の痛み	6か月~1歳:16.0%(11.8%) 2~4歳:26.7(13.4%)

※第38回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会資料より。3回目接種後のデータで、()内は偽薬投与分

日本小児科学会の見解(2022年11月2日)

生後6か月以上5歳未満のすべての小児に新型コロナワクチン接種を推奨します。

乳幼児への新型コロナワクチン接種

○接種券の発送

- ・対象となる方（生後6か月以上4歳以下の方）には、接種券を **11月10日（木）に発送**
- ・10/28までに先行発送の申出のあった方には既に発送済み

○接種体制

- ・医療機関での「個別接種」
- ・**3回接種**（1-2回目間隔：3週間、2-3回目間隔：8週間）
- ・乳幼児用ワクチンの有効成分は12歳以上用の **10分の1**

乳幼児はマスクや手洗い等の対策が難しいため、ワクチン接種が積極的な予防策になります
 かかりつけ医等によく相談したうえで接種を検討ください！

市民の皆様へ（新型コロナワクチンの積極的な接種を!）

「第8波」感染者数・入院者数のシミュレーション （2022年10月10日～2023年2月28日）

追加接種の進み具合 （10/20以降）	1日あたりの 接種ピーク回数	感染者数	入院者数
現状のペース （基本のシナリオ）	現状のペース	約 844 万人	約 32 万人
3回目と同水準	約 85 万回	約 616 万人 （27%↓）	約 22 万人 （31%↓）
3回目の半分の水準	約 42 万回	約 714 万人 （15%↓）	約 26 万人 （18%↓）
2回目と同水準	約 111 万回	約 550 万人 （35%↓）	約 20 万人 （38%↓）

（）内のパーセンテージは、「基本のシナリオ」との比較
 京都大学 西浦博教授の試算による

- 「第8波」の前にオミクロン株対応ワクチンを接種しておくことが感染拡大の抑制に繋がります



できるだけ早期のワクチン接種を検討ください

- 今冬は新型コロナウイルス感染の「第8波」とインフルエンザの同時流行が懸念されています



新型コロナワクチンとインフルエンザワクチンは同時接種できます